

2016年12月

## 理想主義の落日

公益財団法人 国際通貨研究所  
名誉顧問 行天豊雄

25年前の1991年、米国はイラク本土に侵攻してサダム・フセイン政権を崩壊させた。圧倒的な勝利に米国民が湧いていた時ヘンリー・キッシンジャーが云った言葉を思い出す。「これはアメリカ理想主義の落日の輝きだ。」

予想に反したトランプ大統領到来については世界中があと講釈に満ちている。「貧しい白人層の不満の爆発」というのがもっとも有力な解釈のようだ。それは間違いではないだろう。しかしもう一寸理屈っぽく表現すると、それは「アメリカ理想主義が死んだ」ということではないのか。米国の有権者たちは、金持ちも貧乏人も、白人も非白人も、男も女も、従来の米国の指導者達がやってきた「いい顔しい」の偽善的な政策運営態度が頭に來たのである。黒人大統領が登場し人種問題は解決したと云われたのに、現実には激化している。テロ対策に万全をつくすと云いながら事態は悪化する。核廃絶を云いながら、核拡散は続く一方である。金融規制強化で金融独走を押えると云ったのに、一向に効果が上らない。中東に間もなく平和が来ると云い続けるのに事態は泥沼化するばかり。成長率が上って経済格差は減ると云われたのに、実態は全く逆。

耳には聞え易いことばかり云われるが現実には何も生まれない。米国の政治と社会は偽善に満ちている。第二次大戦後70年、米国は民主主義の体現者として世界を指導してきたがその民主主義の理想は偽善にまみれ、米国の国際的地位は凋落してしまった。ヒラリー・クリントンの優等生風のお喋りは、亭主の不倫騒ぎやEメール事件を見ると、正に偽善そのものである。もううんざりした。本音が聞きたい。というのがトランプを選んだ有権者の心情だったのだ。

まことに尤もだと云わざるをえない。アメリカ国民に拍手喝采を送る人も多いだろう。しかし、本当に喜んで良いのだろうか。人権とか、自由という理念を体現した民主主義という政治・社会体系を人類は三千年に亘って育ててきた。何度となく崩壊の危機があった。しかし、何とか生き長らえてきたのは確かだし、共産主義であれ、イスラムであれ、儒教であれ、民主主義を全否定できる代替理念が存在していないのも事実である。

しかし、忘れてはならない重要なことは、民主主義を支える人権とか自由という理念は本来的に理想の追求なのであり、理想の追求という行為には、皮肉なことだが、元来偽善という要素が組み込まれているのだ。100%の聖人はこの世に存在しない。

理想を追求するのは人類だけである。そして人類の歴史が進歩の歴史だったと考えるのなら、それを支えたのは理想だった。理想の追求が偽善の側面を持ったとしても、それだけで理想追求の価値を否定することはできない。第二次大戦後の世界秩序において米国が指導者として果たした役割は、紛れもなく、偽善の側面をもった理想主義だったのである。

トランプ以後のアメリカについて、あるいはもっと広く世界全体について、私が一番案ずるのは、人々が偽善に厭きて理想まで捨ててしまうのではないかということである。理想主義を殺したあとの民主主義に残るのは、赤裸々なポピュリズムとナショナリズムであろう。今までアメリカ人は自分達の民主主義は他の国の民主主義よりワン・ランク上等だと思っていた。アメリカだけが「世界を良くする」という理想を持っていたからである。アメリカが偽善と一緒に理想主義を捨てたあとの世界は野卑で貪欲なワン・ランク下の民主主義が競うことになる。それぞれの国が自分勝手な特色を持った民主主義を主張して争う文明の衝突の時代が到来するのだろう。日本はどの文明圏に属する気なのだろうか。

(株式会社マネーパートナーズ ホームページへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2016 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokuchō 1-chōme, Chūō-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <http://www.iima.or.jp>